



今月の題字
村木美月ちゃん
(荒川小4年)

田町のゆだい

県天然記念物「臥竜梅」 弱った樹木に治療を施す

このほど、大沢にある県天然記念物「臥竜梅」の樹勢回復作業が行われました。本年春ごろ、枝折れや菌類の発生などが発見され、樹木が弱っていることが判明したことから、町教育委員会では盛岡市の樹木医高村尚武さんに作業を依頼。9月20日には折れた枝の接着や菌類の除去が行われました。臥竜梅は福士彌兵衛さんが所有する樹齢約300年の古木。竜が臥せた姿に似た樹形が特徴で、春の到来を告げる風物詩として親しまれています。



国道で軽やかに舞い踊る八木節



勢いよく海中へと進む大杉神社のみこし

山田八幡宮・大杉神社神幸祭 秋空にこだまする祭ばやし

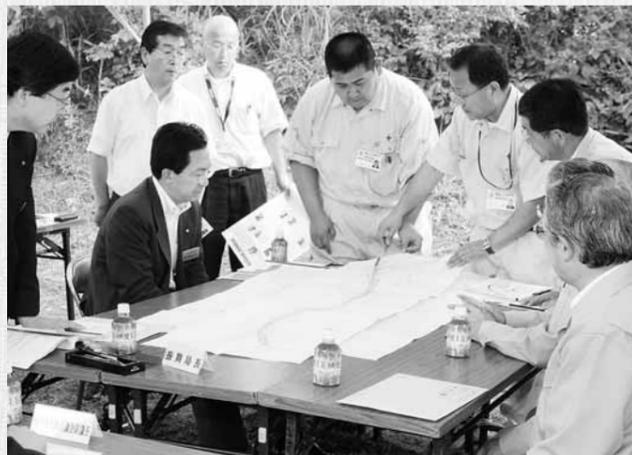
山田八幡宮と大杉神社の神幸祭が9月16日と17日に行われ、町中が笛や太鼓の祭ばやしに包まれました。16日は山田八幡宮の金色のみこしが町内を駆け回り、午後9時ころに境内へ帰ってくると祭りはクライマックス。大勢の観客で埋め尽くされた境内を所狭しと暴れ回り、最後の力を振り絞って石段を上りきると、場内から拍手が沸き起こりました。17日の大杉神社の神幸祭は、雨天のため引き船が中止となりましたが、みこしが海中を練り歩く「お塩垢離」では、降りしきる雨をもとせず陸と海を何度も往復し、観客を沸かせていました。JR陸中山田駅前に設けられた特設会場の「お祭り広場」では、みこしの渡御や町内外の郷土芸能が披露され、大勢の家族連れでにぎわっていました。



お祭り広場で勇壮な舞を披露した山田大神楽

市町村要望で達増知事初来町 道路整備や医師確保求める

9月14日、県に対する市町村要望が行われ、達増拓也知事が就任後初めて山田を訪れました。これは町の重要施策や課題を県に要望するため毎年実施されているもので、当日は達増知事ら13人が来町。沼崎喜一町長が要望書の説明を行い、町道柳沢細浦線を県代行事業として採択されるよう要望したほか、県立山田病院の医師体制の確保などを求めました。達増知事は医師確保問題について「県では国に対して岩手の医師不足を訴えている。また、関係大学へは医師派遣を要請し、山田病院に対しても医師確保の実現に向けて努力したい」と述べました。



町議会が宮古警察署に誓約書提出 交通事故防止の推進を誓う

町内で交通死亡事故が多発していることを受け、町議会では宮古警察署（佐藤善男署長）に交通安全誓約書を提出しました。9月10日に昆暉雄町議会議長ら代表6人が同署を訪問し、昆議長が「悲しい事故をこれ以上起こさないため、町民の先頭に立ち意識を変えて活動することを誓約します」とあいさつ。町議会議員18人全員が署名、押印した誓約書を佐藤署長に手渡しました。これに対し佐藤署長は「皆さんの活動が大きな成果として実ることを期待します」と述べました。議会が独自に誓約書を提出するのは、宮古管内ではこれがはじめてとなります。

9月9日に救急フェア開催 署員ら応急処置方法を熱演

9月9日の「救急の日」にちなみ、救急フェアが開催されました。同日、会場となった山田消防署には親子連れなど125人が来場。山田病院看護師の福士まり子さん（48）と橋端麻理子さん（26）が一日救急隊長を務め、会場では心肺蘇生法やAED（自動体外式除細動器）の講習、消防車の体験乗車などが行われました。また消防署職員により、野球の練習中にボールが胸に当たって倒れた人が、AEDや心肺蘇生法で意識を取り戻すまでの様子を演じた救急寸劇が披露されるなど、訪れた人たちは応急処置や救急に対する理解を深めていました。



消防署職員による救急寸劇の様子／一日救急隊長を務めた福士まり子さん（丸写真右）と橋端麻理子さん